

市非常勤嘱託職員を募集します

(平成21年4月1日採用)

募集職種 (採用予定人員)	主な業務内容	必要な資格	試験内容・ 受験手続き等
家庭児童相談員 (1人)	・家庭における児童福祉に関する専門的技術を必要とする相談指導業務	平成21年4月1日現在65歳未満で、学校教育法に基づく大学、旧大学もしくは旧大学令に基づく大学において児童福祉、社会福祉、児童学、心理学、教育学もしくは社会学を専修する学科もしくはこれらに相当する課程を修めて卒業した人、医師の有資格者、または社会福祉主事として2年以上児童福祉事業に従事した人	<p><試験日時> 2月18日(水) 午前9時20分から</p> <p><試験会場> 市役所別館 第1・第4会議室 (松原通2043)</p> <p><試験内容> 作文と面接</p> <p><申込受付期間> 2月9日(月)までの午前8時30分～午後5時15分 (土・日曜日を除く)</p>
母子自立支援員 (1人)	・母子家庭等を対象に、その自立に必要な相談指導業務	平成21年4月1日現在65歳未満で、母子家庭等の支援に理解のある人	<p><申込用紙交付場所> ・市役所総務課 ・各地域局住民福祉課</p> <p>■問い合わせ・申込先 〒716-8501 高梁市松原通2043 高梁市役所 総務課職員係 (TEL)④0205)</p>
社会教育指導員 (1人)	・市民の社会教育活動に対する指導および助言を中心に、生涯学習の支援に関する業務 ・学習相談または社会教育団体の育成	平成21年4月1日現在65歳未満で、学校教育法に基づく大学、旧大学もしくは旧大学令に基づく大学において教育学、社会学を専修する学科もしくはこれらに相当する課程を修めて卒業した人、または社会教育主事として2年以上社会教育事業に従事した人	<p><試験日時> 2月18日(水) 午前9時30分から</p> <p><試験会場> 教育委員会事務局会議室 (成羽町下原967)</p> <p><試験内容> 作文と面接</p>
青少年育成センター専任指導員兼家庭児童相談員 (1人)	・青少年の非行防止および健全育成に関する業務 ・家庭における児童福祉に関する専門的技術を必要とする相談指導業務	平成21年4月1日現在65歳未満で、学校教育法に基づく大学、旧大学もしくは旧大学令に基づく大学において児童福祉、社会福祉、児童学、心理学、教育学もしくは社会学を専修する学科もしくはこれらに相当する課程を修めて卒業した人、医師の有資格者、または社会福祉主事として2年以上児童福祉事業に従事した人	<p><申込受付期間> 2月9日(月)までの午前8時30分～午後5時15分 (土・日曜日を除く)</p> <p><申込用紙交付場所> ・教育委員会教育総務課 ・教育委員会各分室</p> <p>■問い合わせ・申込先 〒716-0111 高梁市成羽町下原967 高梁市教育委員会事務局 教育総務課総務係 (TEL)④9080)</p>
勤労青少年ホーム指導員兼市民体育館管理員 (1人)	・施設の維持管理、保守点検等 ・施設使用の受付、利用料、情報提供、利用促進等の庶務等	平成21年4月1日現在65歳未満の人	
総合文化会館事務員 (1人)	・施設使用の受付、情報提供、利用促進等の庶務等	平成21年4月1日現在65歳未満で、普通自動車の運転免許資格(AT限定免許は不可)を有している人	

※詳しい内容等は、申込用紙に添付してある試験実施要項をご覧ください。

福西志計子②

裁縫学校の設立

明治新政府は富国強兵策を図り、次々と統一政策を実施していった。身分制が廃されて、四民平等・職業選択の自由となったため、日本中が身を処す道を求めて競争する厳しい社会となっていった。高梁でも土族の多くは職を求めて東京や大阪に出、代わりに近隣



裁縫学校設立地(順正女学校・発祥地)・向町

の土地からの移住者が新しい職業に従事するなど、めまぐるしく変化していった。

福西志計子と木村静は明治9(1876)年から高梁小学校付属裁縫所に勤めていた。この頃から文明開化の時代を迎え、生活面でも西欧化が進み、明治5(1872)年12月3日を明治6年1月1日として欧米と同じ太陽暦を導入したが、農村では旧暦が併用された。西欧化は中央から地方へと進んだが、高梁は比較的速く取り入れられ、明治13(1880)年の新島裏の妻への手紙でみると「山の中とは申せ、至って繁華なる地なり、家数は千余もこれ有り、中々開化風にて、夜も所々ランプもつき、暗夜といえども差し支えはなし、牛乳もあれば牛肉もあり、書店もあり、格別

の不自由のなき所」と紹介されている。

西欧文明と共に自由民権運動やキリスト教も入ってきた。明治12(1879)年初めて県議会議員の選挙が行われ、高梁より柴原宗助が選出された。「山陽新報」に「米国遣伝教師ベレー氏及び中川横太郎、金森通倫の両氏は十月四日より三日間高梁裁縫校にて耶蘇教の説教を行いたまひ、六日午後六時よりは開口社の演説あり、終りに岡山の谷川達海氏が国会開設論を演説せられたり」の記事が出ているが、これは柴原が自由民権運動を唱える中川横太郎とキリスト教牧師金森通倫を連れて帰り、風俗改良講演会を開いたものである。金森通倫はキリスト教を説き、その後、毎月キリスト教の伝道に訪れ、福西、木村の2人は初めてキリスト教に接した。

新島裏は明治13(1880)年2月17日から19日の3日間高梁に滞在、高梁小学校の裁縫所で1日目300人、2日目400人の聴衆を集め、別に婦人会で200人位の人に話をしている。当時の高梁の人口は5000人位だから、町中こそつての一大イベントになったと思われる。新島は人々に、我が国にとっては富国強兵よりも欧米のような文明国にすることこそ急務であり、文明の基を立てるためには信仰と教育であると説いている。まず神を知り、敬い、恐れ、そして信じ、愛すること、これは人間にとつてもっとも大切なことであり、神の規律を守ることに自由人となり、文明の民となることができる、と説く。教育の重要性と教育によつて人心改良に取り組むことこそが国を盛んにすることであり、特に婦人の会では女性の教育の重要性を説き、母親として自分の子を立派に育てるため、自由の心を持ち、見



木村 静

識と愛情をもつた女性を育てることの大切さを説いた。

新島の教えは福西の教育理念に合致していた。彼女は強く共感し、キリスト教に学び、風俗改良婦人会を組織して指導者として活動した。このような活動が町議会で問題となり、福西、木村両教師の活動への圧迫が強まった。ついに2人は明治14年7月に学校を辞職し、後援者の支持も得て、この年の12月10日向町の黒野宅を借りて、私立裁縫所を設立した。月謝は10銭く20銭(100銭が1円)までとした。最初生徒は30人に達せず、生活、学校活動は厳しかったが、2人は信念をもって突き進んだ。

この学校の後援者は主にキリスト教を信奉する人々で、柴原宗助(県会議員)、柳井重宣(実業家)、赤木蘇平(医師)、須藤英江(医師)、小林尚一郎(薬屋のち町長)、石川豊次郎(資産家)、清水質(教師、比庵の父)らで年間100円、3年間援助している。

(文・児玉 享さん)